

# シン・アニメレビュー

アンの「赤」VEの「堇」  
『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』

京都アニメーション





# 目次

アン・シャーリーの赤 ヴァイオレット・エヴァーガーデンの董	
アン・シャーリーの赤 ヴァイオレット・エヴァーガーデンの董 . . . . .	3
異世界とはかつて世界名作劇場だった	
異世界とはかつて世界名作劇場だった . . . . .	9
広告	
. . . . .	13
おまけ	
皆さんにご報告があります . . . . .	17



アン・シャーリーの赤 ヴァイオレット・エヴァー  
ガーデンの堇



## アン・シャーリーの赤 ヴァイオレット・エヴァーガーデン の堇

アン・シャーリーの物語を我々は何で知るだろう？

原作のモンゴメリの小説で、ドラマや映画で、それともアニメで。

いがらしゆみこのマンガもある。

近年は翻訳家の村岡花子を含めたテレビドラマ「花子とアン」もある。

今は『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』で知る。微速度撮影で抜かれた世界、ランプ・ガス灯の照明をデジタル撮影で一コマずつ調整する。世界名作劇場のスーパーウルトラアップグレード映像、京アニ別作品の『リズと青い鳥』の動物たちの芝居は『ロッキーマン』を彷彿させながら、京アニクオリティーと言われるのも、頷ける仕上がりになっている。

そうして綴られるのは、第一次世界大戦期の戦争期を経て、その後のベルエポックを思い起こさせる時代背景。

モンゴメリも体験したWW1の影響が反映されている、『アン』シリーズの後期と同じ年代である。結論を先に言えば、リラとジムスを性別反転させたモノだろう。

おしゃべりな有機質系から、寡黙な無機質系の反転形質がなされたヴァイオレットはアンと同じく、みなし子である。

少女小説の多くは、孤児を主人公にして、斎藤美奈子の『少女小説は挑発する』では、孤児が出てくる事よりも親の不在に注目し、要約すれば「親がいると登場人物に（ドラマを生む）自由な行動をさせられない」とされる。

田中芳樹が『アップフェルランド物語』のあとがきにて、自作にある孤児の主人公が多い点を読者のお便りで指摘されている事を明かしている。率直で素直に訊いているのを「あれあれ？」とリアクションして、古今東西の孤児が主人公の物語を羅列して、その流れの中にある「お話の定型をなぞっているに過ぎない」と語っている。これは誠実な返答だろう。

斎藤の批評と組み合わせれば、アルスラーンが父王の権力圏から離れた時、為政者の才が開花しフロイト学派の考えである兄弟同盟達が立ち上がる。

私は単純化していて家族再生の物語。失った家族を取り戻す動機を設定として作っている。

あるいは田中も児童文学の評論に何かあるはずと示唆しており、その線を探ると、確かにシルヴァスタインの『ぼくを探しに』は孤児の物語として、解釈できる。そして、イヤな言葉である欠損家族の象徴であると、読めなくもない。

ヴァイオレットの話に戻れば、欠損した両腕である。

欠損した腕の「穴」は埋まっている。

必然的にヴァイオレットの「ビッグオー」を探す話になる。

その過程で兄弟の同盟の代わりに、姉妹同盟を築く物語となる。

その疑似家族・拡大家族もあるが、アンの物語の場合、その発行順序の第一にしてファースト・ストーリー「グリーンゲイブルズのアン」ではマシュウの死で終局する。

これをどう解釈するかは、もちろん人それぞれだが、亡くなった事で家族であると、確認して終わる。血のつながりが無い、ある種の聖家族が成立（聖立）していた。

モンゴメリはプロテスタント系長老派であるが、死後になされるバチカン市国の福者認定（列福）を物語内でマシュウにしていたのだ。

アニメ『赤毛のアン』では映像化されていない部分がある。

『アンの愛情』にて、ボーリングブルックにあるアンの生家にアンがフィリパと共に訪れる。そこで現在の住人が、両親の手紙をアンに渡す。

越してきた時から、ずっととっておいたのだ。

押し入れの中に入っていた。

遠い地に出稼ぎに行ったのか、アンの父に出先で届くように送ったものだ。もちろん、赤ん坊だった頃のアンについても、触れられている。

パラリアリズムの小説なら、「あなたは今、その手紙に書かれている『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』のアニメレビューを読んでいる」と、書かれているが、只のアニメレビューに過ぎない。

『スパイダーマン』で提唱されたマルチバースがあるように、『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』は『赤毛のアン』のマルチバースである。

アメシストの宝石があるように、エメラルドがある。「この人物はマシュウとマリラではないか？」と思われる二人がいる。

『赤毛のアン』には、様々な色がある。ダイアナの黒髪、それに憧れて毛染めに失敗したアンの緑髪。アヴォリーにあるグリーンゲイブルズは切妻屋根（三角破風）の家の板張りが、緑である。

地名にも架空地のホワイトサンズ。同じ白にただの並木道を歓喜の白い道と名付けたモノもあるが、やはりマシュウを送るスコッチ・ローズの色がある。作者のルーツのスコットランドの花を供えている。私の「マシュウの聖別」説はあながち妄言ではないと、これでうけとってもらえよう。

こうして花の話題を出したのは、他でもない。『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』の登場人物は鼻の名前を付けられており、白い花の名を家名としている人物もいる。

ヴァイオレットが代筆した母からの手紙を受け取る子の名前は、アン・マグノリア。ホワイトサンズ、スコッチ・ローズと同じ白い花を咲かせる木蓮。

私たちは彼女の運命を少女小説の主人公のように知っている。両側に白木蓮が咲き誇る、歓喜の白い道に至る事を。

映像化されていなかった部分が、やっと『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』でアニメ化されたのだ。

ずっとしまわれていた原作がアニメーションとなったのを観ている。これこそパラリ



アリズムである。

再び、私たちはアン・シャーリーと出会ったのである。



異世界とはかつて世界名作劇場だった



## 異世界とはかつて世界名作劇場だった

かつて観光ビザが発行されていなかった頃、海外旅行は夢のまた夢だった。

海外留学は近代国家の礎になろうとする重い責務を担っていた。漱石のように憂鬱となるのも、仕方がないのだが、これは例外中の例外で、ほとんどの人間は海外に憧れを抱いていた。

石ノ森章太郎が姉を失った傷心で、世界旅行に行けたのは、労働ビザ（取材）であった。

そうしたビザを持たない人間は、輸入された洋書を翻訳した、いわゆる世界名作と呼ばれる作品群を読むのである。サルトルが「世界とは百科全書で出会った」と宣ったように、「世界とはまず名作群で会う」のだ。『少女小説から世界が見える』であるように、そこには様々な国際事情が直接語られずして、間接的に語られている。

こうした海外への希求を求める向きに結果的に応えたのが、世界名作劇場である。

視聴者のニーズに合うという事はスポンサーが付くのであるのが、その大手スポンサーがカルピス社、現在はアサヒグループになっている。

ジョウヒを贈答用嗜好品の飲料化に成功し、売り上げも良かったのだろう。高度成長期、1959年から73年のオイルショックまでの経済成長率年10パーセント以上の経済拡大は市場規模を三倍にする。その消費拡大効果は計り知れない。この時期に企業基盤を固めて、更なる商品認知と企業イメージの向上を図る広告塔として選ばれたアニメ放送枠、それが

- ・ カルピスマンが劇場
- ・ こども劇場
- ・ カルピス名作劇場

である。

ムーミンから赤毛のアンまでがカルピスであり、それを継いだのがやはり食品会社であるハウス食品が第一提供社になった、言わずと知れた世界名作劇場である。（第一提供は必然製作費の出費が一番多い）

この大きなグループを広く世界名作劇場と言われる。狭義には前述の通りハウス食品が第一提供になった以降で、日本アニメーション公認が『『世界名作劇場』が教えてくれた人生で大切なこと』に収録されている作品群である。（『ロッキーチャック』『ハイジ』らは含まれていない）

NHKでも『アニメ三銃士』や『ひみつの花園』が放送され、他に頓挫した『80日間世界一周』があるが、別枠とする。

最大広義に入るのは、『ハックルベリー・フィンの冒険』と『アラビアンナイト シンドバットの冒険』でカルピス名作劇場とは別枠、同局であるが別の放送枠である。

『アラビアンナイト』の本編は虫プロのアニメラマという大人向け映画になってはいるが、これも枠から外れる。まず映画であるので最大広義に外れる。性表現のために再評価が難しい。

『長くつしたのピッピ』は企画進行されたが原作者の承認を得られず、その設定は短編映画『パンダコパンダ』に引き継がれ、後に『ハイジ』制作の礎を築いたのは制作秘話として有名であり、それを「救った（掬った）」のがスポンサーのカルピス社である。

こうして日本人のカルピスとカレーへの愛情を長年のスポンサーが生み出したと、つい言いたくなる。実際の検証では、海軍の金曜カレーの習慣を持つコックが退役後に開いた洋食屋のメインメニューとして定着などの、反論もあろう。戦後の「甘味」への渴望に似た希求を満たしたのがカルピスであり、カフェイン入り飲料の代替ウェルカムドリンクとして根付いたのは、子供向けの番組に提供する以前からそうであった可能性がある。戦争期には海軍カレー同様に、日本軍の飲料として使われたのは、蛇足だろう。（やはりこのあたりに『かぐや姫の物語』の「姫の罪と罰」の罪を高畑は表現していた、とする説を私はとる）

私は冗談でよく『ハイジ』の山羊ミルクの代替としてカルピスが飲まれる、結果としてのプロダクトプレイスメントと、揶揄を含んだ事を言っている。

さて、夕方やゴールデンタイムのタイムコードでは許されない暴力と性を見せていいのが、『無職転生』である。中世ファンタジー、ポルノグラフィティや剣術の殺陣（別枠の『アニメ三銃士』にはある）が足されている。世界名作劇場のレギュレーションが外れた表現ができる深夜帯であるため、あえてマネーションとして出す。

しかし、作者の原質に紛れもなく世界名作群の残滓を感じる。

『あしながおじさん』として幼馴染の学費をかせぐため、ヘレン・ケラー（世界名作の隣棚にある偉人伝）のサリヴァン先生となる。ヘレンにあたる人物が赤毛であるところから、私はやっと気づいた。

『ポルフィの長い旅』（新世界名作劇場）のように一家離散となり、『ロビンソン・クルーソー』の食人のように恐れられた種族、だが『ハックルベリー・フィンの冒険』の逃亡奴隷を思わせる人物と出会う。亜人・デミヒューマンが人種・民族の違い、多文化社会の直喩暗喩として描かれる。

やがて『母を訪ねて三千里』になる。『わたしのアンネット』の木彫りの彫像のように、自作フィギュアが自分を助ける。

天野祐吉さんの「広告とは批評である」に倣えば、後続作は先行作の批評をする。

かつて異世界とは『魔女とライオン』の洋服ダンスの奥にあったのではなく、テレビの電源を入れたブラウン管が見せていたのである。

その前が洋書翻訳の名作であった。

廣告





アマゾン キンドルにて  
「大人になったらジブリを卒業しなさい」  
好評発売中

大人になったらジブリを卒業しなさい C01.jpg

大人になったら  
ジブリを卒業して  
京都アニメーションを観よう

大人になったらジブリを卒業しなさい C02.jpg

<https://www.amazon.co.jp/dp/B07SWXC3V4>

[https://www.amazon.co.jp/%E3%82%82%E3%81%97%E3%82%82%E3%80%81%E5%AE%9F%E5%86%99%E6%9C%80%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%82%AD%E3%83%86%E3%82%AF%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%BC%E3%82%A4%E4%BA%94%E5%B3%B6%E5%8D%83%E5%B0%8B-ebook/dp/B085HK43QD/ref=sr\\_1\\_59?\\_\\_mk\\_\\_ja\\_JP=unadvised\\_text&sr=1-59](https://www.amazon.co.jp/%E3%82%82%E3%81%97%E3%82%82%E3%80%81%E5%AE%9F%E5%86%99%E6%9C%80%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%82%AD%E3%83%86%E3%82%AF%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%BC%E3%82%A4%E4%BA%94%E5%B3%B6%E5%8D%83%E5%B0%8B-ebook/dp/B085HK43QD/ref=sr_1_59?__mk__ja_JP=unadvised_text&sr=1-59)

おまけ



## 皆さんにご報告があります

さる朝、朝の連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」をながら観視聴した。  
このアニメレビューの原稿をプリンアウトしたものに朱を入れながら。  
驚くことに『たまこまーけっと』と設定が似ていた。  
これから先、続いていく物語は京アニの現代劇の設定を借りていこう。  
おそらく、『たまごラブストーリー』や見るのがつらくなる『聲の形』などが、現れていこう。  
私たちは、これから朝ドラを観て京都アニメーションを知るのである。

### 蛇足

単なる予測だが、算太が京アニのニッポニアニッポン・デラちゃんであると私は踏んでいる。外れたら、このセンテンスを削除する。

---

シン・アニメレビュー アン「赤」VEの「葦」『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』

---

著 ゴトチヒ

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---